

令和七年度 二学期終業式 校長式辞

おはようございます。

十二月八日夜、青森県東方沖を震源とする地震では、八戸市で最大震度六強を観測、一次は、津波注意報も発表されました。被害に遭われました方々へのお見舞いを申し上げますとともに、一刻も早く日常生活を取り戻されることを願っております。震源地に近い、本校と同じ水産・海洋高校である青森県立八戸水産高校では、校舎に破損箇所があったものの、学習活動は支障なく行えているという情報で、少しは安堵しているところです。

いつ起こるか分からない災害（地震、津波、火事、大雨、土砂災害など）に、私たちも、日頃から備えておかねばなりません。

八月の終わりから始まった長い二学期には、京都府総合防災訓練、海洋祭、一年生の学科・コース選択、二年生の研修旅行、三年生の進路決定の取組などもありました。さらに明日は、京都市内で京都府内の府立・市立高校が一堂に会する探究エキスポもあります。今学期も部活動では、この後の伝達表彰で紹介しますが、輝かしい活躍がたくさんありました。

他校で流行したインフルエンザの影響や台風などの災害もなく、また交通機関の乱れによる休業もなく、本日、無事こうして令和七年度の二学期終業式を迎えることができたことを大変嬉しく思います。

本日、二点お話しします。

一点目は、近隣住民の方からの感謝の言葉です。

『十一月十八日（火）夕方十八時頃 雨の中、買い物帰りで多くの荷物を抱えて帰宅するために歩いていると、海洋高校生が「手伝いましょうか」と言って、自宅まで荷物を運ぶの手伝ってくれた。体力も落ちてきて、大変だったので本当に助かった。耳が塞がるからか、わざわざ着ていた合羽のフードを取り、礼儀正しく対応してもらえた。

また、雨の中濡れながら手伝ってくれたので、風邪をひいていないか心配だ。』という連絡がありました。

栗田地域に立地する海洋高校で、海洋高生一人の行動が、地域の皆さんからの信頼につながっています。これからも、地域から感謝される海洋高校となるようよろしくお願いします。

二点目は、気候変動を伴う自然現象についてです。

十二月初めに、「現代用語の基礎知識」選の二〇二五年新語・流行語大賞が発表され、高市首相の「働いて」を五回繰り返し返す発言が年間大賞となりましたが、同じく流行語のトッペンの一つに、「二季」というのがありました。

これは、日本の冬春夏秋という四季が、夏と冬の二季になるということを言い表したもので、三重大学 生物資源学部 教授 立花 義裕先生が、地球温暖化に関する研究から導き出されたものです。

十月十九日（日）に、ミップルで、その立花先生の講演を聴く機会がありました。

内容は、近年の異常気象、特に、この夏の暑さの原因についてでありました。

立花先生に連絡を取り、使われたパワーポイントをいただき、この場で使わせていただくことを了解していただくとともに、是非生徒の皆さんにも、気候危機のことを理解して

もらってください。というアドバイスもいただいています。

早速ですが、皆さん、偏西風って知っているでしょうか。これは、地球の周りを西から東へ向かって吹いている風のことです。地上ではなく、上空で観測されます。地球の北極・南極に近づくほど寒く、赤道付近に近づくほど暖かいために起こる「温度差」と「地球の自転」という二つの原因で吹いています。

しかし、温暖化の影響で、北極と赤道の温度差が少なくなり、（このスライドのように）偏西風が蛇行するようになっていきます。この蛇行の影響で、夏^①の太平洋で、北赤道海流や黒潮の影響も受け発達する太平洋高気圧が暑く長い夏をもたらします。

また、ユーラシア大陸では、温暖化で氷河の面積が縮小し、氷や雪で覆われない土地が広くなっているため、水より比熱が小さい陸地は、冬^②には、極端に温度が下がりやすい性質があります。その大陸で冷やされた空気（大陸の高気圧）が、蛇行する偏西風の影響で日本に到達しやすいため、寒波の影響を受けやすくなります。

（スライド）世界地図を見てわかるとおり、日本が世界最大の海洋「太平洋」と、世界最大の大陸「ユーラシア大陸」の境界付近に位置しています。つまり、日本では、今年の梅雨明けが早かったように、夏が長く、さらには冬が厳しく長くなる。結局、春と秋の期間が短くなり、夏と冬のいわゆる「二季化」が進行するというものであります。

このように、世界最大の海洋「太平洋」と、世界最大の大陸「ユーラシア大陸」の境界付近に位置している日本が、温暖化の影響を世界中で最も受けていると仰っています。

立花先生は、早急に地球規模で対策を実行しないと、取り返しがつかない温暖化になるとも言われておりました。

最近、「京都府産の丹後トリガイが大量に死亡」（十一月一日京都新聞）、「瀬戸内海の力キが大量に死んでいる。」（十一月二十日毎日新聞）、「秋サケ凶漁」（十二月十六日水産経済新聞）などなど、海水温上昇が原因とされる、切実な水産物関連のニュースも多くあり、大変気になります。

明日から冬休みに入ります。私たち一人一人が、この地球的規模の課題にどう取り組むか。皆さんも、そんな環境について考える冬休みにしてもらえばと思っております。

年末年始は、それぞれで家族との時間を大切にし、将来のことなどを話し合う良い機会にしてください。事故やけがには十分注意し、健康に過ごすことが何よりも大切であります。そして、三学期に向けての準備も忘れずに。新しい年を迎えるにあたり、目標を立て、気持ち新たに、皆さんが元気な姿で、令和八年一月八日三学期始業式を迎えられますことを願っております。

令和七年十二月十九日

校長 上林 秋男

以上